

教育委員会点検・評価書(平成23年度事業等)

(4)文化部

事業名(所管課)・事業概要(事業費)	備考(成果、課題等)
35. てだこホール管理運営事業(文化課) 効果的な施設管理運営と市の文化芸術の振興を図るために、指定管理者制度を導入し、民間のノウハウを活用した管理運営事業を行った。また、指定管理者による文化芸術事業も4公演実施された。(全施設平均稼働率66.43% 利用件数2,219件 利用料収入61,357,948円) (137,086,212円)	【成果】 指定管理者制度により、経費節減や効率的な運営管理を行うことができた。また、利用者件数・利用料収入とも前年度に比べ増加した。 【課題】 民間企業による公的施設の指定管理を踏まえ、民間視点でのコスト削減、サービス向上、自主事業の充実等、指定管理者の努力と行政による指導監督の視点が引き続き必要。
36. 史跡浦添城跡・登録記念物保存修理事業(文化課) 史跡浦添城跡整備事業は4期35年の計画で実施しており、現在は第Ⅱ期整備事業地区である浦添城跡の西側から南側に遺る城壁・石畳道等の発掘調査と整備を進めているところである。 平成23年度は、東日本大震災の影響により国庫補助金の交付が遅れ、これにより事業実施期間の確保が困難となったため、当初予定していた工事用仮設道路の設置は平成24年度に変更し、本年度は城壁等遺構確認のための発掘調査及び出土品整理作業のみ実施した。 (10,738,907円)	【成果】 発掘調査では前年度までに確認されていた城壁の延長部分や城壁の裏込めとみられる礫群などが確認された。発掘調査面積は約70㎡で、これまでに確認された同地区の石積み遺構の総延長は約100mとなった。出土品整理作業は、前年度までに出土した遺物を含めて整理し、瓦を主体に陶磁器などの洗浄、分類、接合作業を進めることができた。 【課題】 平成22年度の地質調査により、石積城壁の基盤となる岩盤(琉球石灰岩)に剥落や亀裂が確認された。城壁の復元整備に先立ち、岩盤補強等の対策工事を実施する必要がある。

教育委員会点検・評価書(平成23年度事業等)

(4)文化部

事業名(所管課)・事業概要(事業費)	備考(成果、課題等)
37. 浦添市内遺跡発掘調査事業(文化課) 市内における大規模開発に際し、文化財の有無の試掘調査及び範囲確認発掘調査を行い、開発事業者との文化財の取扱に関する協議に向けての基礎資料を得るための事業である。 平成23年度は、浦添南第一土地区画整理事業地内の「前田・経塚近世墓群」の範囲及び基数確認の発掘調査を実施した。 平成22年度の浦添城跡の発掘調査で出土した金属製品(鉄製遺物)の保存処理を行った。	【成果】 浦添南第一土地区画整理事業地内の「前田・経塚近世墓群」において、合計100基の近世墓を確認することができた。同事業地内の島尻層群(約1100万年前～200万年前)の豊見城層(小禄砂岩層・俗称ニービ)からなる丘陵の斜面に横穴を掘って造られた掘込墓(俗称フィンチャー墓)であった。近世墓の範囲や基数を明らかにすることで、区画整理事業の進捗と文化財の適切な保存(記録保存)を行うことができた。 浦添城跡出土の金属製品(鉄製遺物)は、鏃1点、鎧の部品の一つである小札(こざね)1点、クサビ2点の保存と今後の活用の為、恒久的保処理を行った。 【課題】 今後も本市の区画整理事業をはじめとする諸開発事業との調整業務を円滑に進め、文化財の適切な保存を図っていくことが課題。
38. うらおそい地域文化財保全整備事業(文化課) 本事業は、市内の地域文化財を保全整備し、これによって豊かな歴史環境のまち浦添市の実現をめざすものである。 平成23年度は、前年度に実施した市指定史跡「浦添御殿の墓」の発掘調査成果をもとに修復整備を行った。 (44,100,000円)	【成果】 沖縄戦で損壊した屋根や、傾いた庭囲いの石積み等の修復整備によって、浦添御殿の墓のかつての姿を蘇らせることができ、史跡の保存・活用の推進が期待できるようになった。 【課題】 地域文化財の整備を引き続き推進することと、うらおそい歴史ガイド友の会などと連携を図りつつ、文化財めぐり等における文化財の活用を推進していくことが課題。

教育委員会点検・評価書(平成23年度事業等)

(4)文化部

事業名(所管課)・事業概要(事業費)	備考(成果、課題等)
39.市立図書館運営等事業(図書館) 図書館の主な事業は次のとおりである。 ①図書館運営事業では、図書の貸出、市民の必要とする資料の収集、レファレンス(調査・研究援助)、相互貸借、移動図書館の巡回等の奉仕活動、沖縄学・郷土・移民史関係調査・研究に対する資料提供等の活動を行っている。 (70,184,817円) ②図書館管理事業では、図書館施設の維持管理を行っている。(18,794,569円) ③歴史資料(古文書・行政文書)の収集と保存活用事業では、古文書の収集と廃棄処分された行政文書を歴史資料として整理保存、活用を行っている。 (78,823円) ④浦添市移民史編集刊行事業では、浦添市民の移民・出稼ぎ・移住等について関係資料の収集等により移民・出稼ぎの実相の検証と記録保存を行なっている。(3,070,720円) (合計 92,128,929円)	【成果】①図書館運営事業は、図書館法に基づく事業であり、講演会や展示会等の催し物の実施及び広報活動の強化等によりその利用促進を図った結果、平成23年度は年間貸出冊数が466,240冊(点)と前年度に比べ、28,572冊(点)、率にして約6.0%の増となった。また、平成20年度に開始した、図書館コンピュータの整備により、情報へのアクセス機会が拡大され、市民の高度化・多様化するニーズに対して迅速にサービスを提供することができ、図書館利用の促進につなげることができた。特にインターネット予約は12,645件を数え、前年度比5.2%の増となった。移動図書館としよまるは巡回先に「太平特別支援学校」を加え、合計33ステーションとなり、全域サービスの拠点が一つ増えた。さらに、平成21年度から平成23年度までの3ヶ年計画で取り組んだ概ね13歳から22歳が書き手となる「うらそえYA文芸賞」は、好評につき、平成24年度も継続することとなった。 ②図書館の維持管理については、清掃や修繕等により適切な維持管理に努めた結果、図書館利用者に心地良い施設として利用いただくことができた。老朽化のため危険と思われる箇所の改修を行い、利用者や職員の安全を保つことができた。 ③歴史資料の収集と保存活用については、市文書課から保存年限が切れ廃棄処分となった行政文書を整理・保管し、歴史資料として保存することができた。 ④浦添市移民史編集刊行事業についてはハワイ、北米への国外調査、九州地区の県外調査により、移民・出稼ぎ等の聞き取り、資料の収集などを実施し、移民・出稼ぎ等の検証と記録保存を図ることができた。

教育委員会点検・評価書(平成23年度事業等)

(4)文化部

事業名(所管課)・事業概要(事業費)	備考(成果、課題等)
40.美術館運営等事業(美術館) 美術館の主な事業は次のとおりである。 ①教育普及事業は実習教室や体験教室での活動を通し美術への意識高揚と芸術活動の普及を図っている事業である。(1,064,145円) ②美術館運営事業は、自主企画展などの事業実施の嘱託学芸員任用や美術館窓口受付業務等委託などである。(17,969,412円) ③美術館管理事業は施設の維持管理を行っている事業である。(84,762,546円) ④市内小中学校美術作品展事業は各小中学校と連携し、美術作品の製作・展示・鑑賞等の一連の取り組みを通して、子供たちの感性を育み、美術館事業への理解と興味を深めることを目標として実施している事業である。(169,445円) ⑤ウィリアム・モリス展事業は、工業化の進んだ時代に手仕事の復権を訴え日本にも影響を与えたデザイナー・モリスの仕事を紹介する事業である。(7,226,131円) ⑥美術作品修復・復元事業は、当館所蔵の美術作品で経年劣化等による損傷があり、早急に修復が必要な作品を年次的に修復する事業である。(4,573,800円) ⑦堆錦展事業は、平成24年度に開催する企画展で、23年度はその準備や調査を行う。(204,275円) (合計115,969,754円)	【成果】 ①教育普及活動は平成23年度金継ぎや木彫等5種類の教室に47名が受講した。夏休み体験教室では面シーサー等6教室、また、秋休みや企画展に伴う体験教室8教室、あわせて144名の参加があった。 ②美術館運営事業は平成23年度自主企画展として「琉球八景と収蔵品展」を実施し絵画、書、漆器等約40点を展示し654名の入館者があった。 ③美術館管理事業は、特定防衛施設周辺設備調整交付金54,915,000円を活用して空調設備及び電気設備の改修工事を行った。 ④「市内小中学校美術作品展」では、市内の小中学校から243点、特別支援学校から43点、私立中学校から9点の合計295点の応募がありそのうち合計33点を表彰した。 また、例年に引き続き市内幼稚園や基地内キャンプキンザー小学校児童の作品を招待展示した。入館者も997名と大変好評であった。 ⑤ウィリアム・モリス展事業は、19世紀イギリスの芸術家であり思想家であるモリスやその仲間の作品を展示紹介した。ステントグラス(再現)や壁紙、テキスタイルなど87点を展示。沖縄では見る機会が少ない近代デザインの展覧会ということもあり、若い女性など普段の客層とは違う来館者も多く2511名の来館者があった。 ⑥美術作品修復・復元事業では、「黒漆麒麟葡萄栗鼠螺鈿重香合」等計6点を修復し、今後の展示に差し支えない状態にすることができた。今年度は館内の修復室を利用した現地修復を行った。 ⑦堆錦展事業では、東京の個人コレクター作品などを調査し、展覧会への借用展示を交渉した。

教育委員会点検・評価書(平成23年度事業等)

(4)文化部

事業名(所管課)・事業概要(事業費)	備 考 (成果、課題等)
	【課題】①美術館管理事業では、開館から23年を経て施設や設備が老朽化しているので、計画的な取替えや修繕が必要である。 ②美術作品修復・復元事業では今後も計画的に修復する必要がある他、作品購入を行って収蔵品の充実と保全を図らなければならない。 ③企画展では、独自性のある自主企画展に向けた計画的な調査と準備が必要である。